

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	中原区第1グループ(小杉・新丸子)	評価対象年度	平成27年度
事業者名	・事業者名 公益財団法人かわさき市民活動センター ・代表者名 理事長 小倉 敬子 ・住所 川崎市中原区新丸子東3丁目1100番地12	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成23年4月1日～平成28年3月31日	所管課	子ども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	1 小杉子ども文化センター ①年間延べ利用者数	H26 38,992人	H27 36,757人	②年間延べ利用団体数	H26 845団体	H27 733団体
	2 今井小学校わくわくプラザ ①登録者数	430人	406人	②年間延べ利用者数	21,834人	25,390人
利用実績	1 新丸子子ども文化センター ①年間延べ利用者数	43,756人	41,515人	②年間延べ利用団体数	371団体	343団体
	2 上丸子小学校わくわくプラザ ①登録者数	343人	406人	②年間延べ利用者数	26,421人	31,553人
利用実績	3 西丸子小学校わくわくプラザ ①登録者数	267人	301人	②年間延べ利用者数	16,688人	19,293人
	収支実績	単位:円 1 収入 指定管理料 88,612,337 2 支出 人件費 76,512,539 管理費 6,398,283 事務経費 5,728,635 その他経費 3,132,076 合計 91,771,533 3 差引 -3,159,196				
サービス向上の取組	運営協議会、保護者懇談会、子ども運営会議、日常的な利用者とのコミュニケーション等により、利用者ニーズを把握し、活動や運営に反映。事業者のスケールメリットを活かした全館行事、区行事やグループ行事など地域を超えた児童の健全育成、交流の場づくりを実施。					

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業の推進	事業推進及び事業成果	順調に事業の推進が図られているか	10	3	6
		事業計画に基づき、子ども文化センター事業とわくわくプラザ事業を着実に実施したか			
		子ども文化センターの利用者数に増加傾向が見られるか			
		わくわくプラザにおいて、適切に児童を受け入れているか			
(評価の理由)複数館運営するスケールメリットを活かし、全市・区・グループ単位での合同行事を実施し、単一館では得られない体験や、他の施設を利用する子どもたちと交流を深めた。小杉子ども文化センターでは、ジャグリング体験やスポーツ大会を通して、小学生から高校生までの異年齢交流を促進した。新丸子子ども文化センターの「わくわくコンサート」は地域の協力により過去最多の参加者があった。またイベントを「MARUCO」シリーズとして定例化することにより、利用者の定着を促進する工夫を行った。					
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理及び金銭管理をしているか	5	3	3
	効率的・効果的な支出	計画に基づき適切な支出をしているか	5	3	3
		効率的な執行等、経費削減に具体的に取組んでいるか			
		サービスの水準を確保しているか			
支出に見合う効果が得られているか					
(評価の理由)会計処理・金銭処理については適正に行われている。受託20グループ53施設を管理している運営法人のスケールメリットを活かし、一元的な臨時職員の雇用・管理、本部一括による業務委託契約、消耗品や備品の購入等の取り組みによる経費削減を図った。					

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業の周知に積極的に取り組んでいるか	5	4	4
	利用者への対応	利用者に対するサービスが適切にされているか	5	3	3
		特別な配慮を要する利用者への対応が適切にされているか			
	運営協議会の実施	こども文化センター運営協議会を実施しているか	5	3	3
	保護者懇談会の実施	わくわくプラザ保護者懇談会を実施しているか	5	4	4
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校、行政及び地域等と連携しているか	10	4	8
利用者ニーズ	利用者ニーズを把握し、事業運営に反映させているか	10	4	8	
<p>(評価の理由) 毎月のこども文化センターだよりやわくわくプラザだよりの発行やホームページでの情報発信に加え、中高生に向けたよりを定期的に発行し、近隣の中学・高校へ夜間利用の周知をおこなった。接遇研修を実施する等により職員の資質向上を図り、利用者への適切なサービスを提供した。特別な配慮を要する利用者に対しては、巡回相談員による巡回及び研修を行い、スタッフの共通理解を図るとともに、わくわくプラザにスタッフを増員するなど、適切な支援を行った。各こども文化センターは運営協議会を開催し、館の運営や事業内容について協議を行った。わくわくプラザ保護者懇談会を年3回開催し、保護者からの意見要望を運営に反映させ、懇談会とイベントも同時に開催することで参加者が増加した。地域団体等との協働で「わくわくコンサート」や「こどもまつり」(新丸子こども文化センター)、「町探検」(上丸子小わくわくプラザ)等、地域と幅広く連携して事業を実施した。中学校の教諭を講師に招いての職員研修、職場体験の受け入れなど、学校、行政とも連携した。こども文化センターは、意見箱や行事ごとのアンケート、利用団体懇談会の開催により、利用者のニーズを把握し、行事の内容や購入図書等に反映させた。</p>					
組織管理体制	適正な人員配置	川崎市児童福祉施設の設備及び運営の基準に関する条例第54条の規定に従い職員を配置しているか	10	3	6
		こども文化センター及びわくわくプラザの施設管理と事業運営のために、指定管理仕様書において定める職員配置の最低基準どおりに人員を配置しているか			
		川崎市公契約条例を遵守しているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップに必要な研修を実施したか(外部研修の受講を含む)	10	4	8
個人情報等の取扱	個人情報保護に関する規定や体制を整備し、適正に取り組んでいるか	5	3	3	
<p>(評価の理由) 適正な人員配置については、こども文化センター及びわくわくプラザにおいて、適正に職員が配置され、利用児童数や特別な配慮を必要とする児童などの状況に応じて、適時、職員を加配しており、円滑な事業運営が行われた。研修体制については、法人全体の10年以上にわたる青少年分野における人材育成のノウハウを活かし、全市・グループ・館ごと、または、職位ごと、分野ごとの研修など、体系的・計画的な研修が行われていた。これらにより、安全衛生管理に関する知識やレクリエーションのスキル等を事業運営に生かすことができた。また、わくわくプラザのスタッフ会議において子どもの権利条例の勉強会を行うなど、人権尊重の意識向上に向けての取組も行われた。個人情報等の取扱については、個人情報や電子データは鍵のかかる保管庫に保管されている。情報漏えいや紛失等の事実はなかった。</p>					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障を来すことのないよう、施設・設備の保守点検や整備、備品管理等を適切に実施しているか	5	3	3
		利用者の安全確保	5	3	3
	事故等が発生した場合に適切な対応をしているか				
	感染症予防対策や発生時において、適切な対応をしているか				
	防犯対策及び災害時の対応	施設の防犯のための工夫をしているか	5	3	3
		災害発生時に備え、マニュアル等を整備しているか			
災害発生時に確実な対応・行動を取るための取組をしているか					
<p>(評価の理由) 毎月10日を安全点検日とし、施設点検と安全整備につとめ、また迅速に修繕を行うなど、施設管理を適切に行った。安全対応のマニュアルを整備するとともに、独自にヒヤリハット事例をスタッフ会議で話し合うなど、自己の未然防止に努めた。衛生管理についてもマニュアルを整備するとともに、衛生管理研修の実施、うがいや手洗いを励行して子どもの手洗いへの意識を向上させることにより、衛生管理を徹底した。災害対応マニュアルに従って防災体制を整備した。災害発生に適切な行動が取れるよう、災害時対応研修を実施した。また、災害発生時の職員の備用品の確保・管理も適切に行った。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	68	評価ランク	C
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<p>指定管理者以前からこども文化センター及びわくわくプラザの管理運営に携わった経験を生かし、館の事業には地域住民を中心とした幅広い年代が参加し、多世代交流を促進した。新丸子こども文化センターでは利用者がリポーターとして定着化するための工夫が行われたことは評価できる。また保護者懇談会や利用団体懇談会を通して、利用者ニーズを把握して事業や施設運営に反映させた。</p> <p>施設の日常点検を確実に実施し、事故の未然防止を目的としたスタッフ会議などの取組を重ね、子どもの安全を守り、子どもが安心して過ごせるように、適切な施設の安全管理を行った。</p>
--

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<p>人権研修を実施する等、子どもの権利を尊重した施設運営に向けての職員の意識醸成に期待したい。また、駅周辺の再開発で人口が急増している地域であることから、今後住民同士の交流の拠点となり地域の活性化に寄与していくことも望まれる。</p>
--